

# 修学旅行新聞

2024年7月9日  
札幌市立  
共栄小学校  
6年2組  
吉田あおば

## 学びの修学旅行

### 人も生き物も工夫して

人の工夫と生き物の工夫について、お話しします。まず人の工夫です。飼育員さんのお話によると、生き物によって健康管理の方法が違って、その魚専用の餌をまくことがあれば、生き物が野生にいた頃の環境に近づけるために水槽の形を工夫するなど、その生き物が一番健康にいい環境を作るようにするなどの工夫をしていました。

また、繁殖して絶滅危惧種を守ったり、増やしたりしています。例えばシロザメは、今まで繁殖成功が6回しかないで、毎年野生のシロワニを、観察して水族館にいるシロワニが、心地よく繁殖したり生活したりして野生に近い環境になるように心がけています。生き物は生き物で、他の魚を食べないようしたり、爪切り、更には体重測定もし

### 人が眠る 縄文の森



このキウス周堤墓群は、この森は発見されてからからほとんど手入れがされていなくて、木も葉っぱもほとんど、縄文のまま。普通

る発見となった。もともとここはお墓で縄文の頃の人々が今も眠っているらしい。この頃から、死者と、生者分けていたらしく、どの墓地にも、通り道らしきものがあつた。ちなこの墓群は、大きいものだ外径38メートル高さ、約5メートルに達している。これを百日で作ってしまう早業を成し遂げた。

眠っている人が誰かわかるように、人の顔をした、お面「ビビちゃん」を昔は木の棒につけて立てて、誰かを見分けていた。これから私達がすべきことは、こういう森を守りそれをみんなに見せ、守る人を増やしていくことだと思います。

### 生きるための命を大切に・・・

北黄金貝塚の貝塚で、骨及び貝が沢山散らばっていた。木の下には本物の貝や骨があるのだが、この貝塚から海まではだいぶ遠く、しかも坂もあるからこのままでは海まで寮に行くのは無理だ。でも説明してくれた、職員の方は、昔の地球は、今の地球よりも暖かかったから海面が上昇していたことがわかっている。ちなみにどれくらいだったかって言うと、貝塚がある場所から大体10から20メートル下にある駐車場くら



いまで海は広がっていた。つまり縄文の頃の人は、大体10から20メートルの海まで行き来して暮らしていた。この生きるために頂いた命は大切に割ってどんどん並べていった。牛や鹿の骨は食べ終わったら、海から拾ってきたような丸い石を、丸く並べたのがいくつも見つかった。しかもそこには動物や貝だけではなく、人間までがいた。寿命で死んでしまった人を伴う意味で入っていたのだろう。どの時代でも命は、いつも大切に扱われてきたんだと思います

→これが、竪穴住居です。



元などもわかった。この竪穴住居の入口は私達6年生が、かがまないとはいえないほど小さくてきていた。その理由は、縄文人のほうで、今よりも背が小さいからだ。そのためあまり苦勞はなかった。他にも、熊の毛皮が、吊るしてあるなど、当時の着物の材料もよく分かる経験になった。他にも、屋根の上に植物を植えるなどしていた。こうやって、今よりも住みにくい土地でも、たくさん

### 編集後記

修学旅行に行ってみて。私が一番修学旅行で印象に残っているのは、北黄金貝塚で、竪穴住居の説明をされて入ってみたときです。このときまだ私は、竪穴住居の内部構造は、みんな同じなのかと思っていたら、

### 協力して挑めピュア

ニセコビレッチピュアでは、みんなでの場所を先に巡るかまず考える。その時他校の高校生も来ていて、すべてがガラガラの状態じゃないからだ。どれを

やるのか決めてからも、みんなの進むスピードや困っている同じ班のメンバーを助け合っ協力し合いながらやっていった。協力するメリットと言えば、一人で

は考えきれないコトも相談できる事やアドバイスをし合っている企画が作れるところだ。自分だけでやるよりも、ずっと効率がいいし、人の長所をよく知れる良い機会だと思った。そんな協力するメリットを例えると、橋は3人までだから、4人乗らないように気をつ

けたり、お互いに譲り合っで命綱を付けたりと、みんなで協力し合っ一つの障害（アクティビティ）みたいなものを乗り越えていく、班の協力が高まっで、協力していくメリットもわかった、すごく人としての勉強になりました